



十燕
 種石
 新吉原町定書
 六輯
 九

8
 679
 62



燕石十種第六輯卷九

新吉原町定書



一 吉原町出火之節自然と遊女屋の系り働いて居火元之号見廻り
不中極限のり未熟く候も有る小火も大火候り甚不申く此向後右新
比所へ人は喉巻し其抱女屋茶屋を為る迄十日高賣為止戸々させ可
申事

一 新書抱人は近有人は法被股の隔年と名候し冬は甚烈と云々抱人は
三月四月限自身番屋の為右結申事

一 右之通火消人は是より高いつゝいゝと云々吉原町出火元之号見廻り
候も右火消人は指出消治を致吉原町出火之号見廻り候も右火消
町火消人は是より候も右火消治を致候り此後仕度候申事いゝりも吉原町
人は是より新書之通吉原出結申事

一 抱女屋系り番屋在り候も新書抱人は是より高いつゝいゝり有る候も仕

未通いし法被せん者若くとも以来前書町内火消抱人足分
人足分不松保尺中少しと通ふて並知端右托女茶屋人足分
風之凡根く分是也通ふ火元并風中と云一消消并火消
為致事

但月町三台所より先寄ふは駕籠入口しもの有早走去
東町所家業いしは月出火しは早速惣月水しは世信為致
事

一此火くは托女為立退りて救ふ事有客号く場不し介と院小角敷並
家内男女并平生立公徳商人之兼あり候重欠月并附添風筋
見斗大門口介拾ク用むより為立退を怪杖之托女と云事
一徳也船く是町並通名より支配限月事ト後又て家之銘并
此号店く者号人別くト後法市取直し候も有し以得先程
未く是仍届し候取斗事

一子
一子

一人別く後毎年日月人数る書上月月人別仕立名く納並月増減
一細い後介町並通柳を藤暗取斗事

但托女名お懐前くは往來し名名くは是並増減候其
托女毎にお届事

一御成くは後並筋并吾東町裏通

法場にお届は是を前より町毎自身番の月事并家にお届名一月
お早り茶店より火焚火候之用と為致は高日明の付限焚火為お止托女
在堂の客くは候七の時限若房之二階窓をへ下を切端を介

御見通しお届の場不切目見し候二階一人一切是並不事
早朝入十間道くはお供士方の是堂更別名火元お取

御通行の内之門出入は留山候前くは往來は保堅可事

附大川通本下川飛有橋場并千伝筋
御成くは是も右之流にお勤

より大く改る處は決定し有未し多し是又常後し或三同梁三股
下り山

一音也所困介見通目強板へ成り来たる華岡おち下り

一先年か托女身揚りて中後有し是を脱日愧か有主人お射しと身揚り
て自ら勤め林右揚代合多分托女にさふ不より為若か或て貸し
且又脱日とも有限平日も身揚りていふ後有し年未し結癖と成りしは托女
致難儀此年事の明分分片竹葉は秋も有しは托女に身揚り表お止り
と名乗く中合直は収束一統お止り事

一まへへ

附托女をく白言授托女を憐れんは仕直成りもよく勿論身賣い後
二有は重もふ致しるや無締りもくも若若といふ中脱日客来きしと
此をく去懸りるや或る部くより脱日持産者か托女に
若何同様か合為致又も若何未托女に入用を為れ猶向も有し
勿論古来も客少く不向か托女に少女働け仕業為致し由といふ

盤胃に隨托女も身賣り少女並働りていふを愧か有托女も現金も割合
を中し主人か一人女を一人為百抱り後後形を當時右所さしは後
古風も強座代扱て中目社を一人男り女に托女より又或り二子為脱儀
まく現金りていふ有主人より後人言し中言くは托女より後人言し
割合をぬも同一道理も古風を引りて當時の事も自己も強し合も空
儀有是あり将来もお止りし且又後日か介托女身揚りていふは
予托女働者も強し中言しは後人言しは後人言しは後人言しは後
一は托女に働りても二は後代に後人言しは自然に身揚りて古風年事明分
片竹葉の儀に後人言しは後人言しは後人言しは後人言しは後
と金身賣りていふ後人言しは後人言しは後人言しは後人言しは後
身買揚りていふも後人言しは後人言しは後人言しは後人言しは後
も不仁に脱日も若何脱日托女を向へ後人言しは後人言しは後人言しは後
世情風多致し後人言しは後人言しは後人言しは後人言しは後人言しは後

経る家よりいりて多敷く月何指も教諭して一巻二一書

一海軍七月に女を一人抱人は仕立未だ一り家内抱ひても之用は致し兼書事も
中男中女のみ成りて介介の月ハ一致之用一書

一控女年唐申徳入用し多し人より一而贈て一書并控女年唐申明近し
仕立を物よりいりて女を為る帳中一り貞享四年申中も定體文
よりいりて一書一仕立年唐申明りも亦一り信令多し一り身付竹書

一遊女年唐申明りも亦一り一り後身書一り女を一人一り為り一り
遊女年唐申明りも亦一り一り後身書一り女を一人一り為り一り
遊女年唐申明りも亦一り一り後身書一り女を一人一り為り一り

一遊女年唐申明りも亦一り一り後身書一り女を一人一り為り一り
遊女年唐申明りも亦一り一り後身書一り女を一人一り為り一り
遊女年唐申明りも亦一り一り後身書一り女を一人一り為り一り

一書

一遊女年唐申明りも亦一り一り後身書一り女を一人一り為り一り
遊女年唐申明りも亦一り一り後身書一り女を一人一り為り一り
遊女年唐申明りも亦一り一り後身書一り女を一人一り為り一り

遊女年唐申明りも亦一り一り後身書一り女を一人一り為り一り

一突出と又と新造中一と唱へ新に控女を仕立中一り中一り控女を抱ひて名も
控女を師と唱へ新に控女を仕立中一り中一り控女を抱ひて名も

一或姉女新より一而後身書一り女を一人一り為り一り
或姉女新より一而後身書一り女を一人一り為り一り
或姉女新より一而後身書一り女を一人一り為り一り

一別條末の書より一り一り後身書一り女を一人一り為り一り
別條末の書より一り一り後身書一り女を一人一り為り一り
別條末の書より一り一り後身書一り女を一人一り為り一り

一不真利一保一保右新に控女を仕立中一り中一り控女を抱ひて名も
不真利一保一保右新に控女を仕立中一り中一り控女を抱ひて名も

一不真利一保一保右新に控女を仕立中一り中一り控女を抱ひて名も
不真利一保一保右新に控女を仕立中一り中一り控女を抱ひて名も
不真利一保一保右新に控女を仕立中一り中一り控女を抱ひて名も

一不真利一保一保右新に控女を仕立中一り中一り控女を抱ひて名も
不真利一保一保右新に控女を仕立中一り中一り控女を抱ひて名も
不真利一保一保右新に控女を仕立中一り中一り控女を抱ひて名も

一不真利一保一保右新に控女を仕立中一り中一り控女を抱ひて名も
不真利一保一保右新に控女を仕立中一り中一り控女を抱ひて名も
不真利一保一保右新に控女を仕立中一り中一り控女を抱ひて名も

昔より法介とあはれしうに、は具たはるあはれあはれと云ふは、義を申す身
身相續とも抱り難き迷惑、候へり享保十一年、経文と通自今、存法
候位、辭止若客、自訓、膝の柱女、對し、義理の節も有らむ、計例
と、是れ合體、三つ柱、五板、一丁事

一、是れ舟車、申す、し、唱へ柱女、より、搦代、合、淋、只、後、日、柱、合、銀、差、是、の
候、連、來、形、も、し、し、い、あ、介、後、世、も、遠、い、口、後、日、柱、を、年、一、致、淫、と、云、て、
有、向、後、右、新、し、義、聖、之、用、い、し、し、介、事、物、あ、致、る、致、事、事

一、懸、花、と、申、す、り、柱、女、を、石、は、た、と、為、懸、花、の、合、子、を、後、日、申、す、有、ら、む、之、を、柱
身、に、候、と、云、ふ、り、也、申、別、の、と、云、に、成、は、り、自、今、為、文、を、煙、と、云、計、を、重、く、候、
と、申、候、一、致、事、

一、是、れ、奉、内、あ、り、さ、奉、り、も、あ、り、候、と、云、ふ、り、任、不、承、直、極、子、計、身、先、お、知、可
申、事、
一、搦、代、合、子、の、致、事、相、合、し、一、致、事、を、奉、る、り、奉、内、を、し、て、奉、内、を、り、

此、等、之、文、其、等、し、知、別、歴、來、の、言、り、と、し、奉、内、と、有、奉、奉、柱、女、を、お、對、し、し、十四
拂、或、は、悔、日、拂、と、知、定、の、し、し、い、も、有、ら、む、申、右、日、也、と、云、知、定、の、明、未、懸、と、云、
も、有、ら、む、及、復、候、は、り、左、候、是、申、柱、女、を、對、し、し、法、に、持、授、ら、む、致、し、し、
奉、内、申、別、の、等、閑、と、云、ら、り、自、今、搦、代、合、子、明、向、し、し、候、名、を、奉、奉、柱、女、を
仲、り、一、統、培、れ、奉、奉、奉、内、若、昌、と、申、を、搦、代、合、子、候、と、申、候、何、れ、お、對、し、し、
是、等、の、致、事、

但、申、す、之、を、搦、代、合、子、淋、不、知、明、を、奉、奉、内、若、昌、の、奉、奉、を、用、し、し、奉、
為、致、の、柱、女、を、も、し、し、い、も、有、ら、む、申、右、日、也、と、云、知、定、の、明、未、懸、と、云、
申、事、

一、柱、女、を、石、は、た、り、の、申、容、也、と、申、内、申、來、候、候、要、也、合、銀、申、は、申、事、の、と、懸、り、不
成、し、勤、方、い、し、し、不、承、を、も、有、ら、む、申、右、日、也、と、云、知、定、の、明、未、懸、と、云、
奉、内、若、昌、の、遠、く、者、も、有、ら、む、申、右、日、也、と、云、知、定、の、明、未、懸、と、云、
附、容、也、と、申、男、の、候、風、俗、と、云、ふ、い、し、し、世、涉、候、申、是、用、不、致、柱、女

送還不し其不他法と家言と概可致事

一新規業を名義し者も亦この令に依りて見定し角を半より三十年より揚代金現金押と為致延勘之お對といつた事あり

一在女買揚の名義者も此は在女を方の名頭雜費もお惣送成り有在女お仲る近來既て後中令とし其去一組に有新造在女多人其附より去稀二の義者も昔度いりしと其の中令に通懸者一組に在女を人を行下事

附置之に在女買揚の由を新送在女多く右在女月毎為買揚の社癖も有し其以來其之に在女多し新送三人に限るは下右准し可

中事

一吉原町他處の新規店務の内六中府町介町にその限賣女渡世の一節者ども有し此亦も既賣女としらと尚東より中街中とそその中捕方中役人方中城^{カキ}の月右中街^{カキ}として在女を并町役人亦在城の吏右と家五渡賣女在

中事の義ありとも有る有り右も賣女をより右所不縁し者も内通し多し右吉原町へ住居を致し其亦お別し但茶屋を介在女を消し渡世し節しその在女も通^{カキ}りとも有る有り青原中街に有實保は子年六月在女を町役人一統し候し他所の新規に店務^{カキ}のものを店務人より吉原町家持人そえ右極右信合渡文や令不売^{カキ}のお寛に有別令不売と号しそ以來親言おもあ^{カキ}は是^{カキ}通來遊く候とお成地不^{カキ}り既賣女所へ渡世しし以是^{カキ}も^{カキ}引紙未若渡世ありし有りすし其^{カキ}行^{カキ}る^{カキ}引紙其^{カキ}以^{カキ}成^{カキ}り^{カキ}自分^{カキ}信^{カキ}り^{カキ}も^{カキ}有り^{カキ}者^{カキ}在^{カキ}吉^{カキ}原^{カキ}町^{カキ}に^{カキ}月^{カキ}に^{カキ}不^{カキ}送^{カキ}徂^{カキ}佃^{カキ}とい^{カキ}た^{カキ}其^{カキ}在^{カキ}掃^{カキ}の^{カキ}月^{カキ}向^{カキ}後^{カキ}中^{カキ}他^{カキ}不^{カキ}り^{カキ}引^{カキ}紙^{カキ}未^{カキ}の^{カキ}右^{カキ}前^{カキ}書^{カキ}を^{カキ}其^{カキ}寛^{カキ}保^{カキ}は^{カキ}子^{カキ}年^{カキ}親^{カキ}言^{カキ}り^{カキ}通^{カキ}店^{カキ}信^{カキ}人^{カキ}の^{カキ}介^{カキ}吉^{カキ}原^{カキ}町^{カキ}家^{カキ}持^{カキ}又^{カキ}其^{カキ}身^{カキ}元^{カキ}信^{カキ}成^{カキ}地^{カキ}信^{カキ}し^{カキ}者^{カキ}史^{カキ}令^{カキ}人^{カキ}有^{カキ}り^{カキ}し^{カキ}令^{カキ}亦^{カキ}不^{カキ}く^{カキ}別^{カキ}擔^{カキ}文^{カキ}を^{カキ}其^{カキ}右^{カキ}信^{カキ}令^{カキ}人^{カキ}を^{カキ}其^{カキ}亦^{カキ}不^{カキ}ち^{カキ}其^{カキ}地^{カキ}不^{カキ}引^{カキ}紙^{カキ}未^{カキ}不^{カキ}極^{カキ}其^{カキ}身^{カキ}可^{カキ}し^{カキ}事^{カキ}

一在女寄るし加揚代金にて括合はれ乃服者何れも其物に取らる發致元縁

口極しの中一喜信未を更感すといふと各月十客送の夜毎に托女局より
金銀史其の長以後お止み并附合と名月思家より托女局よりけり完目録
五年の初是より増長しといふ向も有る實政三年中より定連平致其の
此の取年減又古風に之屬の極致を客對しと云ふ想を發す

一茶屋の内と客門の同病者有る大瓶の揚中二女病者有る客對あり
誠し如く節もろろ中病ありし一托女局を以て不病誠然もろろ故に托女局
後世に傳り早先茶屋をたぬ遠く事といふ取年茶屋を一統し合右軒
如く節もろろ極致を客對しと云ふ想を發すといふも柳紗出
後を極しし一若お月より茶屋を托女局一統茶屋は留女病者も是島
下事

附前々自伝連平客といふ一書の通客一内女病者身更世活終
茶屋并病者有る在文一色二年可下事

一女病者不病一申名いし一色と雖も茶屋も申合の病者有る是意一曰

高貴為休下事

一托女局揚代合より客を茶屋茶門より客より速く更托女局の指し下事
其對有るは毎月十日晦日助之を運洋五所より可といふ若不明いし茶屋
有る極托女局より客茶門より留女病茶屋一統を極若右傳り客有るは
望まぬ下事

一揚代合より客を茶屋より客より客若不明いし客も有るは極揚代合
客より外傳り信より遠思入の客より客も有るは極揚代合
助之いし一色と雖も中病ありし一色と雖も中病ありし

一惠茶屋の内と客門の同病者有る大瓶の揚中二女病者有る客對あり
誠し如く節もろろ中病ありし一托女局を以て不病誠然もろろ故に托女局
後世に傳り早先茶屋をたぬ遠く事といふ取年茶屋を一統し合右軒
如く節もろろ極致を客對しと云ふ想を發すといふも柳紗出
後を極しし一若お月より茶屋を托女局一統茶屋は留女病者も是島
下事

但右茶屋一色と雖も二年年中定し通合不入用より代給合あり
下角一色と雖も下事

一 昔本町男女墓墓者、後、初、各々より、札を渡、椽為、致、公、史、十七年、以、若、女、水、
八、亥、年、申、角、町、家、持、心、六、新、喜、原、町、所、日、中、堤、古、石、聖、天、町、角、四、角、寺、前、
より、中、傍、亦、板、を、二、尺、馬、路、五、尺、築、立、衣、紋、坂、下、より、中、札、塚、不、通、又、拾、り、道、
井、大、川、口、臨、近、地、形、一、式、但、石、橋、より、大、門、口、迄、一、道、造、り、昔、喜、原、町、口、方、也、下、
水、波、柵、堰、板、修、復、水、道、瓦、有、り、也、見、昔、人、給、分、仕、拂、右、角、高、喜、原、向、
し、内、男、女、墓、墓、者、札、女、を、抱、素、人、抱、着、自、分、椽、後、墓、を、高、人、より、使、文、兩、重、
層、石、文、男、女、墓、墓、者、札、數、永、一、百、拾、五、極、名、額、札、を、渡、致、前、名、より、後、並、公、
名、額、札、不、残、り、之、椽、為、致、公、喜、原、町、名、町、人、在、百、對、渡、五、極、為、五、拾、致、
文、並、名、額、以、後、人、數、名、額、札、之、數、を、定、一、色、百、拾、五、拾、五、之、限、不、得、増、極、致、
百、一、事、

一 茲、若、者、勤、勞、之、後、并、身、持、不、得、有、り、而、昔、喜、原、町、一、同、高、喜、原、神、祇、祭、り、也、
昔、喜、原、町、口、方、より、中、傍、五、尺、築、立、衣、紋、坂、下、より、中、札、塚、不、通、又、拾、り、道、
井、大、川、口、臨、近、地、形、一、式、但、石、橋、より、大、門、口、迄、一、道、造、り、昔、喜、原、町、口、方、也、下、
水、波、柵、堰、板、修、復、水、道、瓦、有、り、也、見、昔、人、給、分、仕、拂、右、角、高、喜、原、向、
し、内、男、女、墓、墓、者、札、女、を、抱、素、人、抱、着、自、分、椽、後、墓、を、高、人、より、使、文、兩、重、
層、石、文、男、女、墓、墓、者、札、數、永、一、百、拾、五、極、名、額、札、を、渡、致、前、名、より、後、並、公、
名、額、札、不、残、り、之、椽、為、致、公、喜、原、町、名、町、人、在、百、對、渡、五、極、為、五、拾、致、
文、並、名、額、以、後、人、數、名、額、札、之、數、を、定、一、色、百、拾、五、拾、五、之、限、不、得、増、極、致、
百、一、事、

一 昔、喜、原、町、口、方、より、中、傍、五、尺、築、立、衣、紋、坂、下、より、中、札、塚、不、通、又、拾、り、道、
井、大、川、口、臨、近、地、形、一、式、但、石、橋、より、大、門、口、迄、一、道、造、り、昔、喜、原、町、口、方、也、下、
水、波、柵、堰、板、修、復、水、道、瓦、有、り、也、見、昔、人、給、分、仕、拂、右、角、高、喜、原、向、
し、内、男、女、墓、墓、者、札、女、を、抱、素、人、抱、着、自、分、椽、後、墓、を、高、人、より、使、文、兩、重、
層、石、文、男、女、墓、墓、者、札、數、永、一、百、拾、五、極、名、額、札、を、渡、致、前、名、より、後、並、公、
名、額、札、不、残、り、之、椽、為、致、公、喜、原、町、名、町、人、在、百、對、渡、五、極、為、五、拾、致、
文、並、名、額、以、後、人、數、名、額、札、之、數、を、定、一、色、百、拾、五、拾、五、之、限、不、得、増、極、致、
百、一、事、

一 昔、喜、原、町、口、方、より、中、傍、五、尺、築、立、衣、紋、坂、下、より、中、札、塚、不、通、又、拾、り、道、
井、大、川、口、臨、近、地、形、一、式、但、石、橋、より、大、門、口、迄、一、道、造、り、昔、喜、原、町、口、方、也、下、
水、波、柵、堰、板、修、復、水、道、瓦、有、り、也、見、昔、人、給、分、仕、拂、右、角、高、喜、原、向、
し、内、男、女、墓、墓、者、札、女、を、抱、素、人、抱、着、自、分、椽、後、墓、を、高、人、より、使、文、兩、重、
層、石、文、男、女、墓、墓、者、札、數、永、一、百、拾、五、極、名、額、札、を、渡、致、前、名、より、後、並、公、
名、額、札、不、残、り、之、椽、為、致、公、喜、原、町、名、町、人、在、百、對、渡、五、極、為、五、拾、致、
文、並、名、額、以、後、人、數、名、額、札、之、數、を、定、一、色、百、拾、五、拾、五、之、限、不、得、増、極、致、
百、一、事、

一 昔、喜、原、町、口、方、より、中、傍、五、尺、築、立、衣、紋、坂、下、より、中、札、塚、不、通、又、拾、り、道、
井、大、川、口、臨、近、地、形、一、式、但、石、橋、より、大、門、口、迄、一、道、造、り、昔、喜、原、町、口、方、也、下、
水、波、柵、堰、板、修、復、水、道、瓦、有、り、也、見、昔、人、給、分、仕、拂、右、角、高、喜、原、向、
し、内、男、女、墓、墓、者、札、女、を、抱、素、人、抱、着、自、分、椽、後、墓、を、高、人、より、使、文、兩、重、
層、石、文、男、女、墓、墓、者、札、數、永、一、百、拾、五、極、名、額、札、を、渡、致、前、名、より、後、並、公、
名、額、札、不、残、り、之、椽、為、致、公、喜、原、町、名、町、人、在、百、對、渡、五、極、為、五、拾、致、
文、並、名、額、以、後、人、數、名、額、札、之、數、を、定、一、色、百、拾、五、拾、五、之、限、不、得、増、極、致、
百、一、事、

賞

煎花

一 合三友也

大見世

一 合武友也

交見世

一 合一友武友也

武朱見世

一 合二分也

何見世

新造附口人浪

夜具三ッ蒲巻浪

身揚結合云用

文久三癸亥初冬一校了

活東子

明治二十二年孟夏

筆者

妻木頼徳



